

中学校 社会科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P82～91

社会科(公民的分野) 事例5
キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

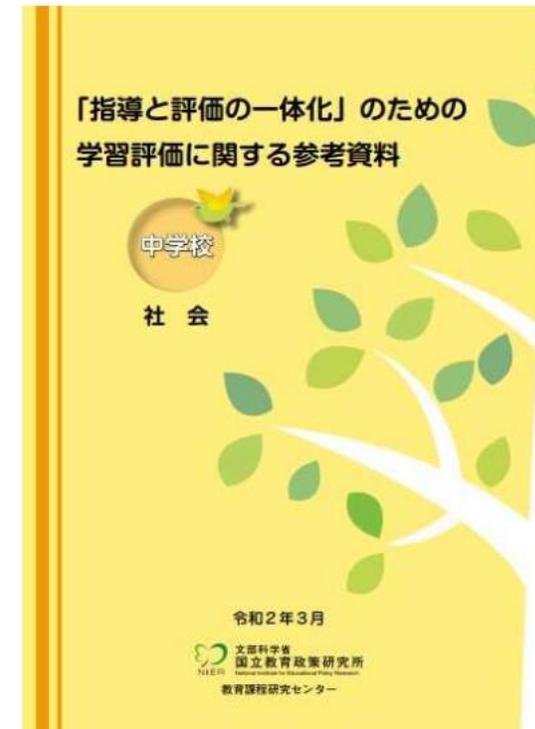
単元名
民主政治と政治参加

内容のまとめり
C 私たちと政治 (2) 民主政治と政治参加

1 単元の目標

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・ 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割，議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方，国民の権利を守り社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があること，地方自治の基本的な考え方について理解する。
- ・ 民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現する。
- ・ 民主政治と政治参加について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

※作成手順は「令和2年度 全県教育課程説明会 社会科部会(中学校)」を参考にしてください

3 指導と評価の計画(22時間)

(1) 単元の指導計画

- 単元の導入「社会を担う主権者となるためには」・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- 第一次「社会の課題を解決するためには」・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）
- 第二次「社会の課題に国全体で取り組むためには～食品ロスを例に～」・・・・・・・・（6時間）
- 第三次「公正な裁判の保障により人々の人権を守るためには」・・・・・・・・（4時間）
- 第四次「私たちが住む地域の課題を私たちの力で解決していくためには」・・・・・・・・（6時間）
- 単元のまとめ「主権者として社会に参画するためには」・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）

3 指導と評価の計画(22時間)

(2) 単元における問いの構造

【単元を貫く問い】 ※単元の導入及び単元のまとめで生徒に提示
社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

【第一次の問い】 社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。

【第二次の問い】 社会の課題となっている食品ロスを解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。

【第三次の問い】 裁判において公正に判断する上で大切なことはどのようなことだろうか。

【第四次の問い】 よりよい〇〇市にするために、〇〇市議会議員補欠模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。

(3) 指導と評価の展開例

○ 「評定に用いる評価」 ● 「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入	<p>【ねらい】単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p>				
1時間	<p>◇（学習活動の概要）グループでの対話的な学習で、単元を貫く問いに対する疑問を挙げながら、学習課題を設定するとともに、課題解決への見通しを立てる。</p> <p>問（主発問）「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか」について疑問はないだろうか。また、この問いをどのように解決したらよいだろうか。</p> <p>〔予想される疑問〕 「よりよい社会とはどのような社会か。」 「様々な考えがある中で、どのようにして社会全体で取り組むのか。」など</p> <p>留（指導上の留意点） ・大項目C(1)の「人間の尊重についての考え方」、「日本国憲法の基本的原則」や小学校社会科における我が国の政治に関する学習成果を生かすようにする。</p>			●	●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見だし、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、解決への見通しを立てている。（ワークシート）

単元における観点ごとの評価規準を設定する際には、「指導と評価の一体化」に留意する指導と評価は別物ではない！

<p>単 元 の ま と め</p> <p>1 時 間</p>	<p>◇前次に実施した模擬選挙の投票と結果に対する考察を基 に、社会をよりよいものにするために主権者として政治 にどのように関わるかを考察、構想する。</p> <p>問 【単元を貫く問い】社会をよりよいものにするために、 最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように 政治に関わるのがよいだろうか。</p> <p>留) 単元を貫く問いに対し自らの考えをまとめる際は、具体 的な現実社会の諸課題を取り上げ、社会参画を視野に、自 らの行動と結び付けて考察、構想するよう指導する。</p>				<p>○</p> <p>○対立と合意，効率と公正，個 人の尊重と法の支配，民主主義 などに着目して，主権者として 政治参加の在り方について多 面的・多角的に考察，構想し， 表現している。(ワークシート)</p> <p>○</p> <p>○単元の導入に立てた見通し を踏まえて学習を振り返り，次 の学習や生活に生かすことを 見いだしている。(ワークシー ト)</p> <p>○我が国の政治や政治参加に ついて関心をもち，問いを見い だし，その社会的意義を記述し ている。(ワークシート)</p>
---	---	--	--	--	--

「学習改善につなげる評価」を行い，生徒に必要な指導や助言をした上で，「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行う。

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 観点別学習状況の評価

① 知識・技能

「知識・技能」については、民主政治と政治参加に関する理解について評価する。各次の学習の過程で理解の状況を見取り、「学習改善につなげる評価」を行う。「おおむね満足できる」状況(B)に達していない生徒がいる場合は、次の授業以降に再度説明するなど、確実に理解させる手立てが必要となる。このような指導、助言を行った上で、次末に「評定に用いる評価」を行う。評価方法は、ワークシート等に論述したものやペーパーテストによる評価が考えられる。

また、情報を収集し、読み取り、まとめる場面では、本単元までに身に付けた技能が活用されているか、「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行う。

4 観点別学習状況の評価の進め方

② 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」については、「現代社会の見方・考え方」など、「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、表現できているかを評価する。第一～四次において「学習改善につなげる評価」を行い、生徒に必要な指導や助言をした上で、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行う。この観点の評価で留意すべきことは、考察や構想にあたって、「対立と合意」、「効率と公正」、「個人の尊重と法の支配」、「民主主義」などに着目しているかどうかを確認することである。したがって、「学習改善につなげる評価」で生徒がこれらの概念に着目していない場合、これらについて復習したり、考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりするなどした上で、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行うことが大切である。

4 観点別学習状況の評価の進め方

③ 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」については、民主政治と政治参加に関する学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、民主政治や政治参加の重要性から、主体的に社会に関わろうとする態度について評価する。このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元末で、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価する。一方、「主体的に社会に関わろうとする態度」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていききたいこととして見いだした、問いの内容とその社会的意義の記述によって評価する。具体的には、「単元の導入」で、単元の学習の見通しをもたせる。第二次で、「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行った上で、「単元のまとめ」でのワークシートへの記述を基に「評定に用いる評価」を行う。詳しくは、事例6をご覧ください。

4 観点別学習状況の評価の進め方

(2) 観点ごとの評価の総括

単元における観点ごとの評価については、「評定に用いる評価」を基に、下表のように行うことが考えられる。なお、「学習改善につなげる評価」(●)については、表中の評価場面に限らず、適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図るようにする。

氏名	観点\次	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
国研太郎	知・技		●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A～C
	思・判・表		●	●	●	●	○100%	A～C
	主体的態度	●		●			○100%	A～C